

身近な医療の現場から

最新MRI検査で分かる 治る認知症を見逃さない!

副院長 富永 二郎 先生のお話
脳神経外科



のプライドを尊重し、家族の理解と受け入れを促す対応が必要です。ひとくちに認知症といっても原因となる病気は様々です。治療が難しいものもあります。が、「治る認知症」を見逃さないことが最も重要です。診断には、診察

認知症とは、脳の細胞が死滅することで、社会生活に支障が出る状態のことをいいます。症状として代表的な「もの忘れ」ですが、

や問診に加え、日常生活をよく知る家族の話も伺います。さらに、認知機能検査やMRI、CTなど画像検査装置を使って調べることで、診断の重要な手がかりを得ます。

知っているはずの物や名前を思い出せないなどは加齢によるもので、認知症とは区別されません。認知症では「経験や体験自体を忘れる」状態が見られます。忘れる自覚がないため、認知症扱いされることを不愉快に感じて受診を拒否する人もいます。治療にあたっては本人

例えば、認知症の中で一番多いとされる「アルツハイマー型認知症」は、記憶障害が出る何年も前から脳に異常が起きていると言われています。MRI検査の精度向上で、初期でも海馬の萎縮状態などが分かります。早期に発見すれば、症状の進行を緩やかにする投薬治療が可能です。「脳血管性認知症」は、脳梗塞や脳出血な

▶高解像度で小さな病変も発見が可能。末梢の細かい血管まで見ることができます。



認知機能検査

ど脳血管障害によって起こります。原因となる部分をいち早く発見し、治療してリハビリを行なうことで症状の進行を抑えられます。認知症・歩行障害・尿失禁の3つの症状が出る「正常圧水頭症」は、脳室拡大の有無をMRI検査で調べます。

この正常圧水頭症や、軽い頭部打撲の数週〜数月後に認知症の症状が出てくる「慢性硬膜下血腫」は、手術で機能が回復し、症状を改善できます。

西湘病院では、最新のMRI装置を導入し、病気の早期発見、治療への体制を強化しています。大切なことは症状が軽いうちにできるだけ早く適切な診断と治療を行なうことです。「様子がおかしい」と思ったら症状だけで判断せず、かかりつけ医に相談し、専門医がいる病院で総合的な診断を受けましょう。

自宅で出来る簡単なチェック

もしかしたら認知症?

- ① 今日は何曜日ですか?
- ② 「ふじのやま」を何も見ずに逆から言ってください。
- ③ 今の日本の首相は?
- ④ 今のアメリカ大統領は?
- ⑤ 1分間で動物の名前を10個あげてください。
- ⑥ 昨日の夕食のメニューを思い出してください。
- ⑦ 100から7を引くと?そこから更に7を引くと?
- ⑧ グーチョコキパーをできるだけ早く、6回繰り返してください。
- ⑨ 今何時ですか?
(時計を見ずに教えてください)
- ⑩ 最初の質問はなんでしたか?



取材協力

医療法人 財団報徳会
西湘病院

院長 原 俊介

小田原市扇町1-16-35

☎0465-35-5773